

構造設計標準仕様

適用は　□　印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称　西表漁港製氷貯氷冷凍施設　新築工事
建築場所　竹富町字西表2493番地

(2) 工事種別　■新築　□増築　□増改築　□改築

(3) 構造種別
□木造（W）　□補強コンクリートブロック造（CB）　■鉄骨造（S）
□鉄筋コンクリート造（RC）　□壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
□鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）　□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
□プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）

(4) 階　数
地下　0階　地上　1階　塔屋　－　階

(5) 主要用途　倉庫業を営まない倉庫

(6) 屋上付属物
□広告塔　□高架水槽　kN　□　□
□煙　突　□キュービクル　kN　□　□

(7) 増築計画　□有（　　）　■無

(8) 付帯工事
□門塙　□擁壁　□　□　□

(9) 特別な荷重
□エレベータ　人乗（油圧式）　□リフト　kN　□ホイスト　kN
□倉庫積載床用　kN/m²　□防火水槽　kN　□受水層　kN

(10) 構造計算ルート　X方向ルート　1　－（　）　Y方向ルート　1　－（　）

2. 使用構造材料

(1)　　コンクリート

適用箇所	種　類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	品質管理強度 F _c =N/mm ²	スランプcm
捨コンクリート	■普通	18		15
土間	■普通	21	24	15
基礎、基礎梁	■普通	21	24	15
	□普通□軽量			

(2)　コンクリートブロック（CB）
□A種　□B種　□C種　厚□100、　□120、　□150、　□190

(3)　鉄　筋

		種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋		■SD295A	D10～D16	図示	■重ね継手
		■SD345	D19	図示	
丸　網	□SR235				□特殊継手 （　　）
溶接金網	□				

(4)　鉄　骨

	種　類	使用箇所	現場溶接	設計溶接強度
鋼　材	□SS400　■SN400A　■SN400B	図示	□有　■無	□0.9F　■1.0F
	□STK400　■BCR295	図示	□有　■無	□0.9F　■1.0F
	■SN490B　■SN490C	図示	□有　□無	□0.9F　□1.0F
	■SSC400	図示	□有　□無	□0.9F　□1.0F

備考

(5)　ボルト

■高力ボルト□F10T　■F8T　□S10T認定品(□M12、■M16、■M20、□M22)
■中ボルト　φ=12　高力ボルトすべり係数試験　■要　□否
■アンカーボルト　φ=22　L=550mm　ナット（□シングル■ダブル）
□頭付スタット　φ=　　L=　　mm

(6) 屋根、床、壁

	厚	使用箇所
□ALC版		
■折　版　型式	H=88　厚0.8	
□デッキプレート	型式	
□キーストンプレート	型式	厚
□		
□		

3. 地　盤

(1)　地盤調査資料
■有（■敷地内　□近隣）　■ボーリング調査　□平板載荷試験　□スウェーデン式
□表面波探査
□無（調査予定　□有　□無）

(2)　地盤調査計画
□ボーリング調査　□静的貫入試験　□標準貫入試験　□水平地盤反力係数の測定
□土質試験　□物理探査　□平板載荷試験　□調査資料有り

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎、杭の位置を明記すること）

深度

土質

N値

標準貫入試験

調査地盤

位置図

支持地盤、地層及び深さについてのコメント

孔内水位

近隣データの調査地番と設計地番とは約　m

備考

深度

土質

N値

標準貫入試験

調査地盤

位置図

支持地盤、地層及び深さについてのコメント

孔内水位

近隣データの調査地番と設計地番とは約　m

備考

4. 地業工事

(1) 直接基礎　■ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　試験型　□有　□無
深さGL-0.55m　支持層-0.55　長期許容支持力度　55　KN/m²　載荷試験　■有　□無

(2) 杭基礎　支持層-図示

杭　種	材　料	施工法	備　考
□RC　□PC	PC（□A種　□B種　□C種）	□打ち込み	
□PHC　□H鋼	PHC（□A種　□B種　□C種）	□埋込み(セメントミルク工法)	
□鋼管　□摩擦杭	鋼材　□STK400　□STK490	□回転貫入工法 (T0ハイル工法又は、同等耐力以上の工法)	大臣認定第TAOP-0469号 82年　月　日
□	□		
□場所打ち	コンクリート　F _c =	□オールケーシング　□底底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル　□ミニアース BH	■底底杭 日本建築セー認定 第　年　月　日
コンクリート杭	スランプ セメント量 試験　主筋 SDOP	□　□深礎〔　□手握 □機械掘	

杭仕様　□施工計画書承認　□杭施工結果報告書

試験杭（□有・□無）（□打ち込み・□載荷）　本

杭径（mm）	設計支持力（kN）	杭の先端の深さ（m）	本数	特記事項

※打撃、圧力又は振動により設けられる基礎ぐいの打撃力等に対する構造耐力上の安全性を確保する措置
「日本建築学会建築工事標準仕様書又は公共建築工事標準仕様書」による

5. 鉄筋コンクリート工事

(1)　コンクリート

■コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。
■セメントは、JIS　R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。（遅延材含む）
■寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
■構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は、打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
■ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

(2)　鉄　筋

■鉄筋はJIS　G3112の規格品を標準とする。
■鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継ぎ手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）（2）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）（2）」による。
■D19未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
■ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（200箇所を超えるときは、200箇所ごと）に1回行い、1回の試験は5本以上とする。
外観検査　■有　□無、　引張試験　□有　■無、　超音波探傷試験　■有　□無
■柱の帯筋（H O O P）の加工方法は、■H型（タガ型）　□W型（溶接型）　□S型（スパイラル型）とする。

(3)　型　枠

■材料　合板厚12mm/mを標準とする。　■打放し合板型枠　A種　塗装合板
■型枠存置期間

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
■日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
□
(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
製作工場　■製作要領書　■工作図　■施工計画書
□建設省告示第1103号による認定工場（大臣認定　グレードまたは都登録　Mランク）
■材料規格証明書または試験成績書
■鋼材　■高力ボルト　□特殊ボルト　□スタッドボルト
■社内検査表　□
(3) 工事監理者が行う検査項目
□（　　印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
■現寸検査　□組立・開先検査　■製品検査
■建方検査　□　□
(4) 接合部の溶接は下記によること
■鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第12章）
■日本建築学会「溶接工作規程、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
(5) 接合部の検査
□溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査又は検査数			備　考
		社　内	第三者	工事監理者	
■突合せ溶接部 □ □	超音波探傷試験	100　%	30　%	4　%	
	外観（目視）検査	100　%	4　%	4　%	
	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注）現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。
■高力ボルトは「JIS　B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないまでよい。
■高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。
(6) 防錆塗装
■防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS　K5621、2回塗りを標準とする。
■現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。
■防錆塗装は、ホルムアルデヒドF☆☆☆☆とし、TVOC対策品とする。
仕上げ塗料
■仕上塗装は、ホルムアルデヒドF☆☆☆☆とし、TVOC対策品とする。
(8) 耐火被覆の材料
□
(9) 溶融亜鉛メッキ工法
■公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成16年版　7.12.1　7.12.2　7.12.3　7.12.4　7.12.5　7.12.6によることとする。

7. 設備関係

■特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
■設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
■床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1／3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

8. その他

■諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■要に応じて記録写真を撮り保管すること。
■コンクリートの品質は建築基準法37条に適合すること。

備考

図面名称

縮　尺

図　面　番　号

西表漁港製氷貯氷冷凍施設（R5緑）

西表漁港製氷貯氷冷凍施設　新築工事

竹富町字西表2493番地

構造設計標準仕様

A1版：S=　—
A3版：S=　—

S　—　1

有限会社 エン設計

沖縄県沖縄市胡屋5丁目24番6号
沖縄県知事登録第132-746号
一級建築士第195008号

TEL 098-933-8885
FAX 098-933-8956
渡慶次　伸

事業名称
工事名称
工事場所

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D…部材の成 R…直径
 ϕ …間隔 r…半径 L…中心線 lo…部材間の内法距離 ho…部材間の内法高さ
 ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S, HOOP…補強帯筋 ϕ …直径又は丸鋼
 ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S, HOOP…補強帯筋 ϕ …直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり厚さ

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む7形および形状のキャップブライにのみ用いる。
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上				

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16 ϕ 以下 D16 19 ϕ 以上 D19	3d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16 ϕ 以下 D16 19 ϕ ～25 ϕ D19～D25 28 ϕ ～32 ϕ D29～D38	4d以上 6d以上 8d以上

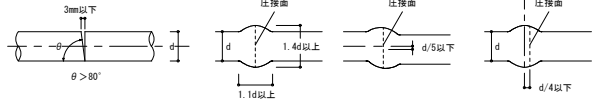
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽重コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ(L1)
		一般 (L2)	下 ば 筋 (L3)	スラバ	
SR235	21～36	35d フックつき	25d フックつき	15cm フックつき	35d フックつき
	18以下	45d フックつき			45d フックつき
SD295A SD295B SD345	21～36	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき
	18以下	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

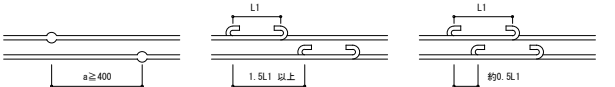
継 手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状

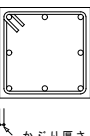


圧接継手



(4) かぶり厚さ (単位: mm)

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。



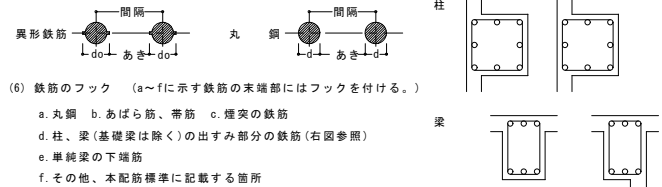
かぶり厚さ

部 位	設計かぶり厚さ (mm)
屋根スラブ	30
床スラブ	40 (1)
非耐力壁	40
耐力壁	50 (2)
柱	50 (3)
壁	50 (3)
柱・はり・床スラブ・耐力壁	50
基礎・構造物	50

〔注〕(1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
 (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
 (3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
 (4) 軽重コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 (5) () 内は仕上げがある場合

(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



(6) 鉄筋のフック (a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
- d. 柱、梁 (基礎梁は除く) の出ずり部分の鉄筋 (右図参照)
- e. 単純梁の下端筋
- f. その他、本配筋標準に記載する箇所

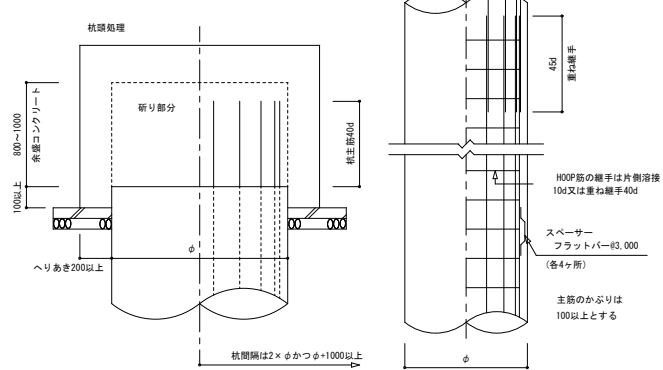
3. 杭

(地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

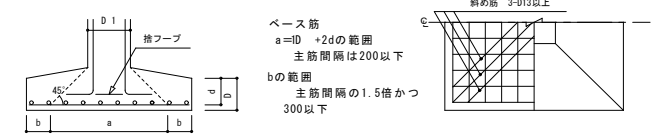
所定の位置に止まった場合	所定より低く止まった場合
杭 径 450 ϕ	但し $\leq \phi$ の場合 $> \phi$ の場合は工事監理者の指示による
補 強 筋 10-D13	500<H $\leq$ 1000 2-D16以上
HOOP	※印はD10～D200とする

(2) 現場打ちコンクリート杭

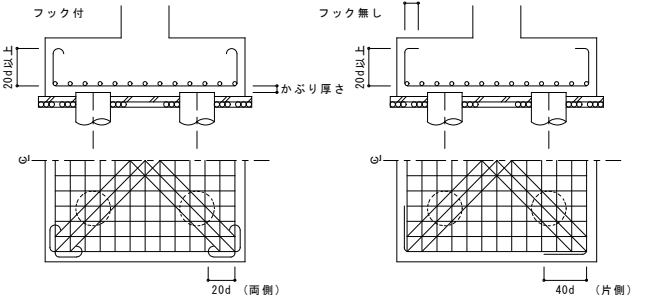


4. 基礎

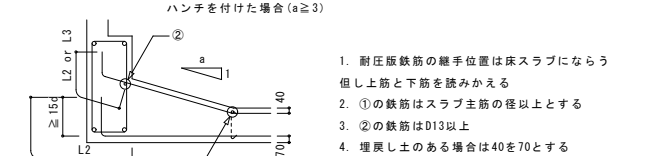
(1) 直接基礎



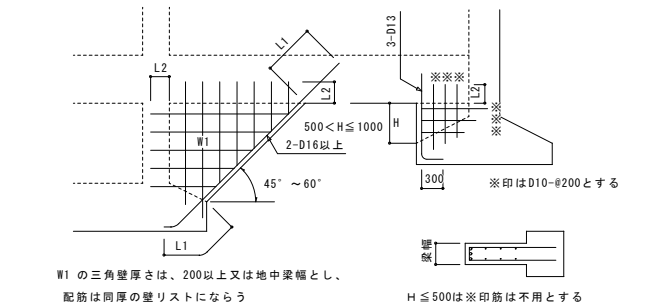
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

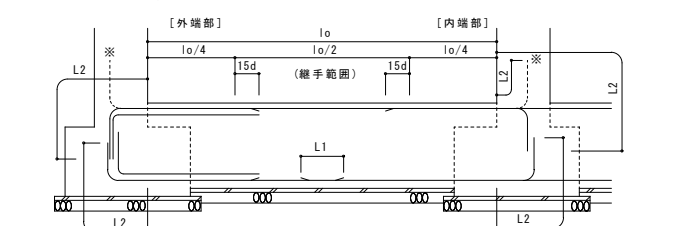


(4) 基礎接合部の補強

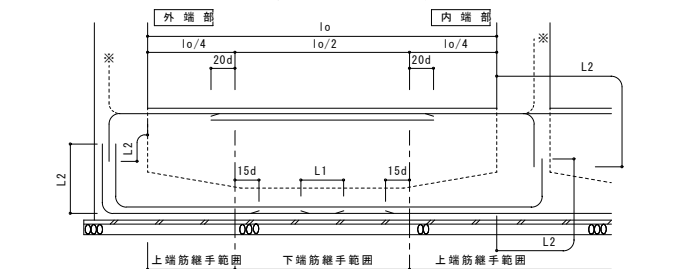


5. 地中梁

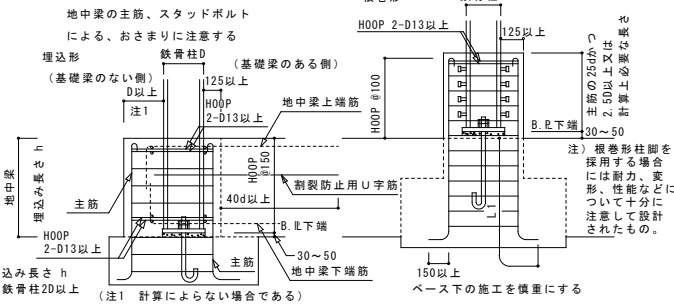
(1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)



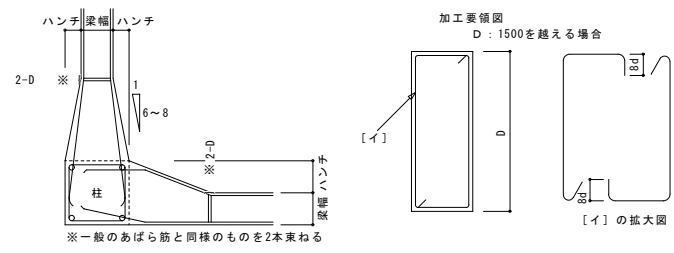
(2) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)



(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

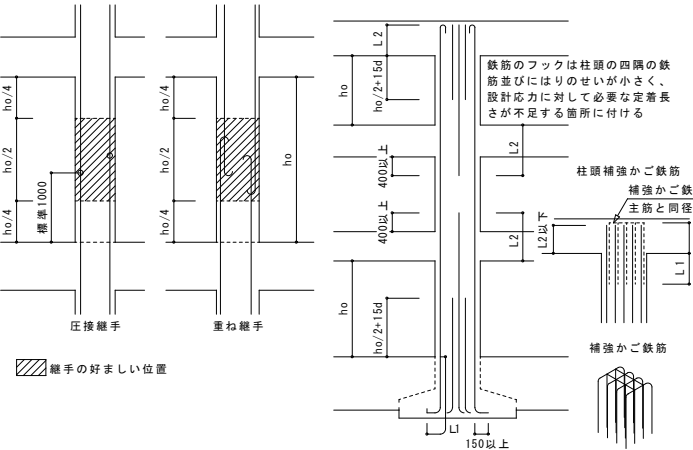


(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



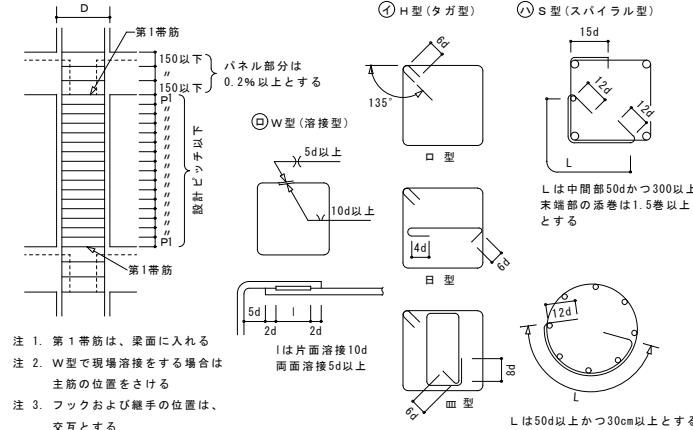
6. 柱

(1) 柱主筋の継手



継手の好ましい位置

(3) 帯 筋

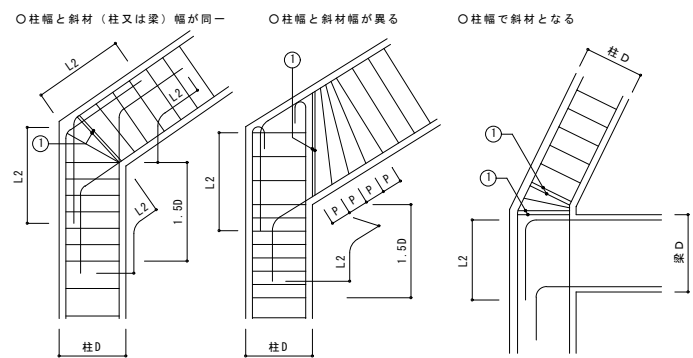


注 1. 第1帯筋は、梁面に入れる

注 2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける

注 3. フックおよび継手の位置は、交互とする

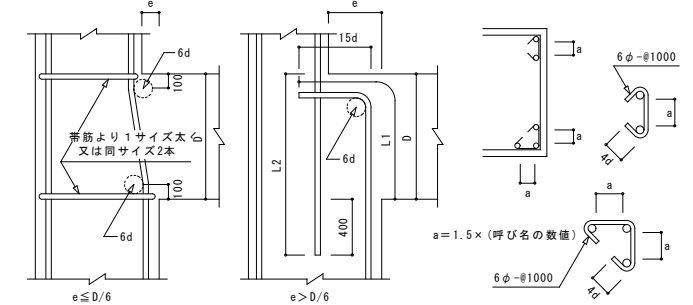
(4) 斜め柱・斜め梁



注 1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし ϕ 100以下とする

注 2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

(5) 絞リ



(6) 二段筋の保持

〔特記事項〕

備考



沖縄県沖縄市胡屋5丁目24番6号 TEL 098-933-8885
 沖縄県知事登録第132-746号 FAX 098-933-8956
 一級建築士第195008号 渡慶次 伸

事業名称 西表漁港製氷貯氷冷凍施設 (R5線)
 工事名称 西表漁港製氷貯氷冷凍施設 新築工事
 工事場所 竹富町字西表2493番地

図面名称

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

縮 尺

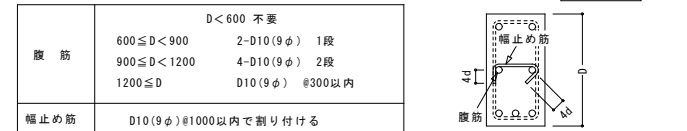
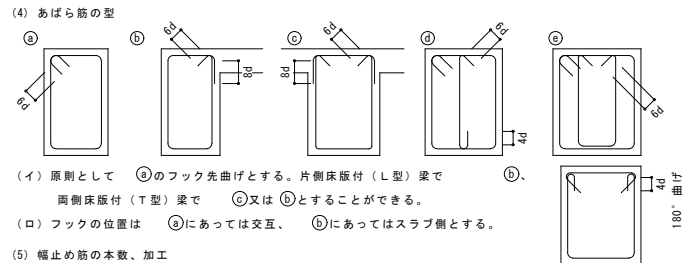
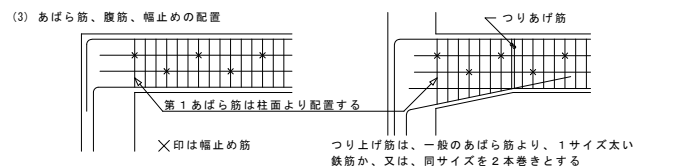
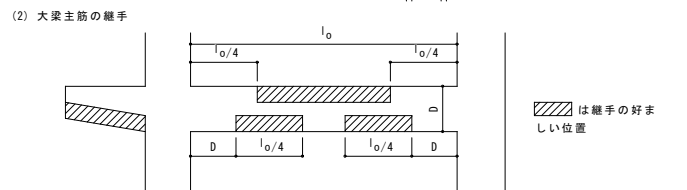
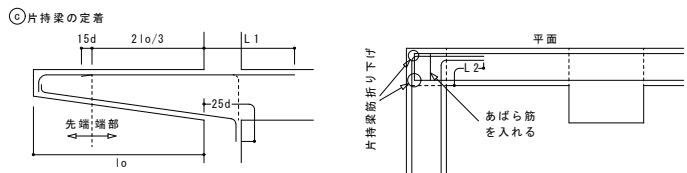
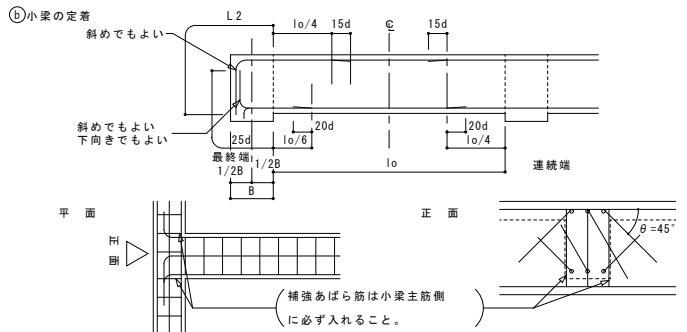
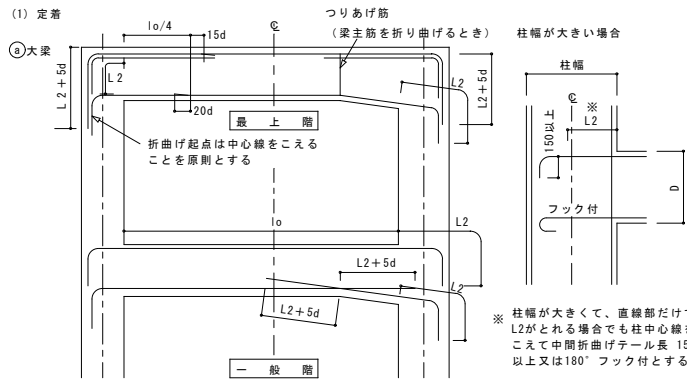
A1版: S=1:100
 A3版: S=1:200

図 面 番 号

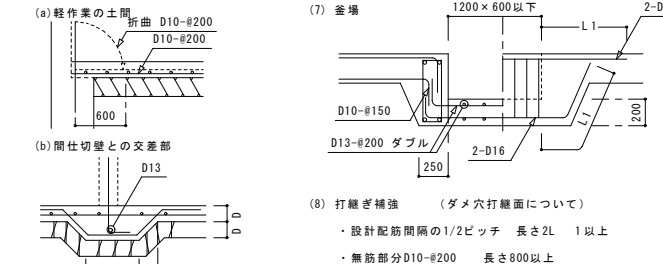
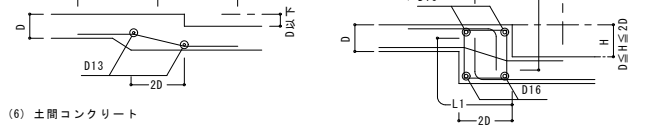
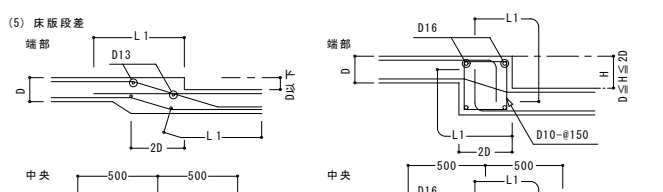
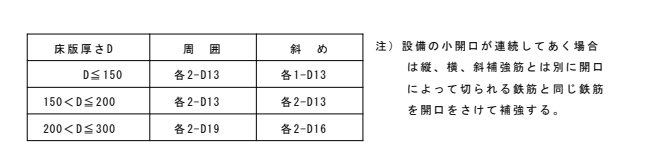
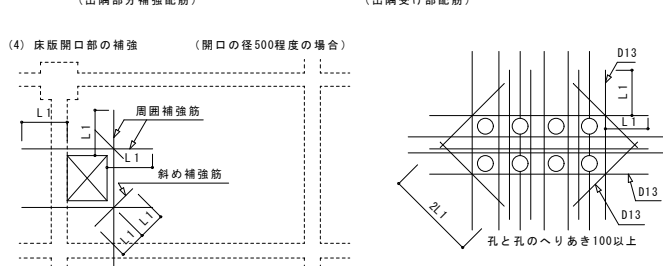
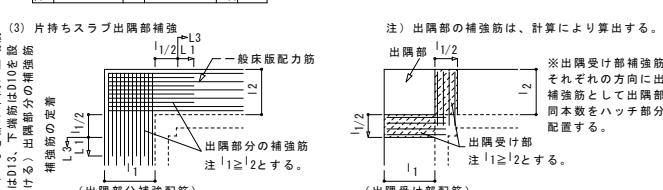
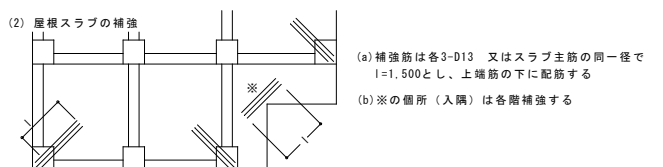
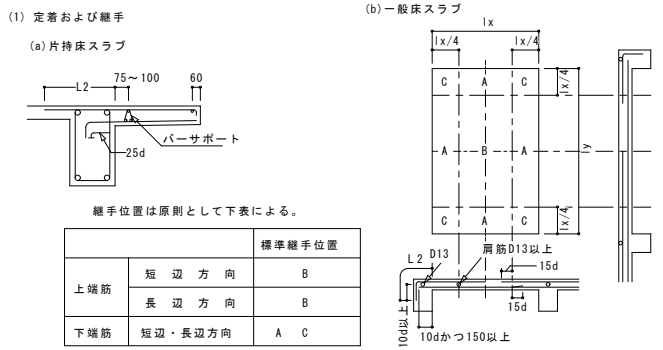
S - 2

7. 大梁、小梁、片持梁

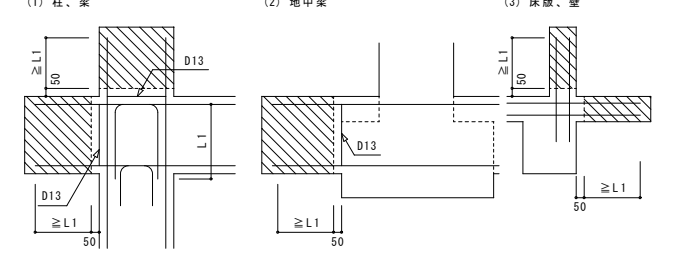
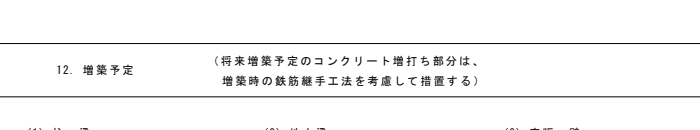
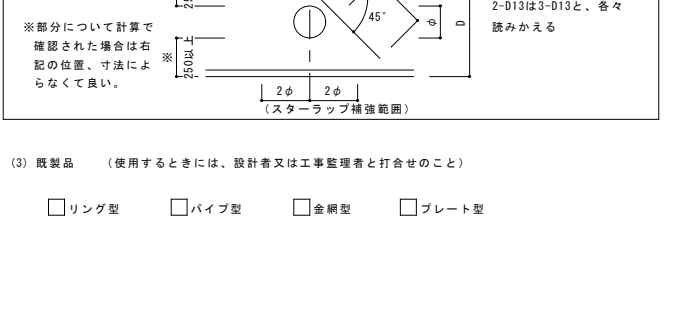
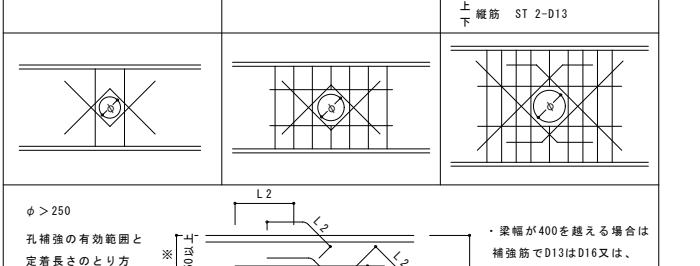
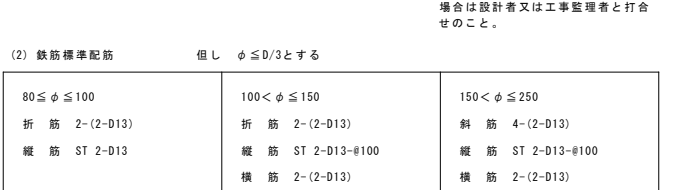
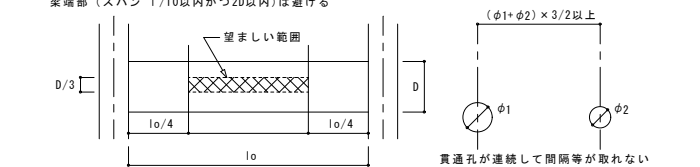
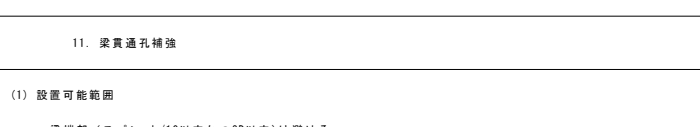
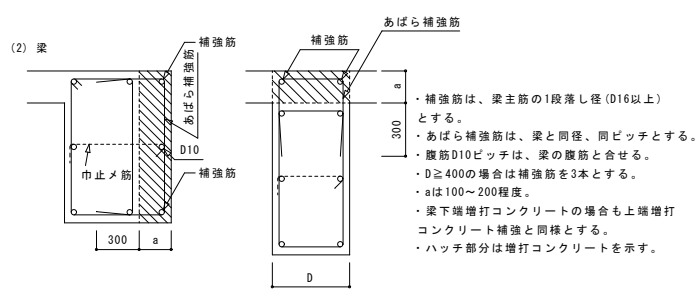
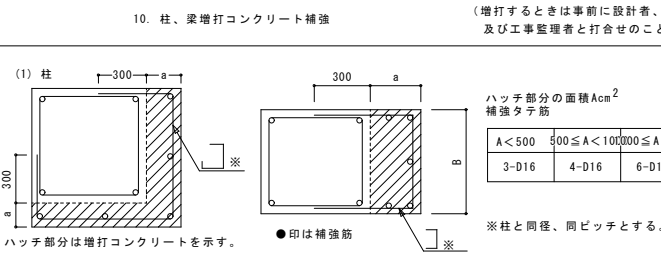
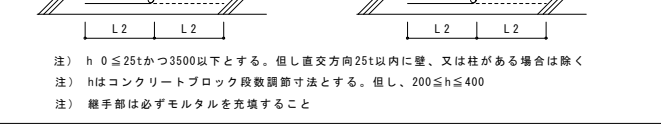
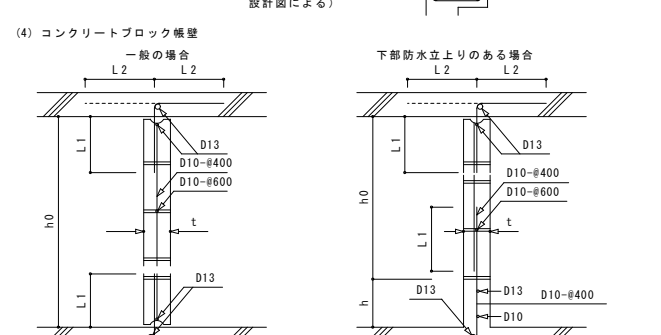
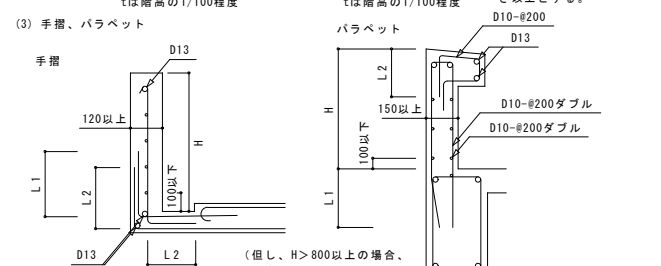
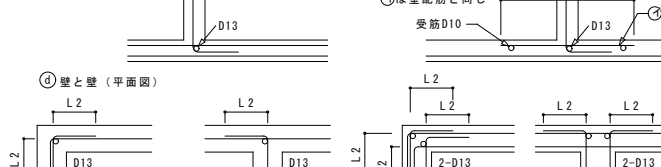
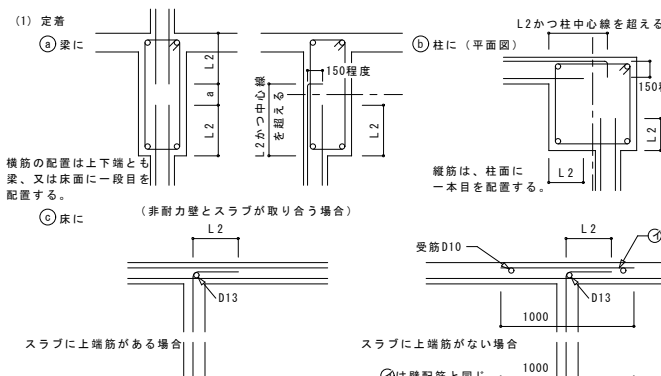
※L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による



8. 床版



9. 壁



【特記事項】

備考

有限会社 エン設計

沖縄県沖縄市胡屋5丁目24番6号 TEL 098-933-8885
 沖縄県知事登録第132-746号 FAX 098-933-8956
 一級建築士第195008号 渡慶次 伸

事業名称 西表漁港製氷貯氷冷凍施設 (R5緑)
 工事名称 西表漁港製氷貯氷冷凍施設 新築工事
 工事場所 竹富町字西表2493番地

図面名称

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

縮尺

A1版: S= —
 A3版: S= —

図面番号

S - 3

鉄骨構造標準図（１）

１．一般事項

- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による
- (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
- (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- (c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接工
- 溶接工は施工する溶接に適用するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
- (イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ロ) アークエアーガウジング機(直流) (ハ) サブマージドアーク溶接機1式
- (c) 溶接方法
- アーク手溶接(MC) ノンガスシールドアーク溶接(NGC) ガスシールドアーク溶接(GC) アークエアーガウジング(AAG)
- (d) 溶接姿勢
- 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O
- (e) 仮付溶接工は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付位置
- 仮付溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- 仮付不良 良 仮付不良 良
- (ロ) 突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- 仮付溶接 裏はつり側にする。 開先面
- (f) 溶接施工
- (イ) エンドタブ
- I 突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
- II エンドタブの材質は、母材と同質とする
- III エンドタブの長さは、MC:35mm以上 NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
- IV プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る
- (ロ) 裏あて金
- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (ハ) スカラップ 半径は30～35mmとする
- (ニ) 裏はつり
- 標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける
- (ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行なう
- (5) 塗装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

２．溶接基準図

(注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位:mm)

(1) スミ肉溶接

t ≤ 16mm				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする

・tはt1、t2の小なる方とする

・余盛は(1+0.1S)mm以下とする

・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所に注意)

D1 ≤ t/3 t/4 ≤ S ≤ 10mm t ≤ t1

t	t > 16mm
溶接姿勢	F、V

・両側に補強スミ肉溶接を付加する

(3) 突合せ溶接 (平継手 T形継手)

f = t/4

t	6 < t ≤ 19mm
溶接姿勢	F、V

・両側に補強スミ肉溶接を付加する AAG

f = t/4

t mm	MC NGC				GC			
	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6 ≤ t < 12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12 ≤ t < 16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16 ≤ t	35°	9	9	8	35°	9	9	8

溶接姿勢 F、V

a > 4mmの場合

のど厚 t mm	余盛の高さ mm
t ≤ 4	1
4 < t ≤ 12	2
12 < t ≤ 19	3
t > 19	4

t 6 < t < 19mm 溶接姿勢 F、V

f ≥ 0.5mm (但し、t ≥ 15mm のとき4mmとする)

θ = 45°/127

f = 6 ~ 2 (裏はつり後裏溶接)

・両側に補強スミ肉溶接を付加する

a > 4mmの場合 平継手で板厚が異なるとき

5 1 t1 t2 a

f = 6 ~ 2 (裏はつり後裏溶接)

t 6 < t < 19mm 溶接姿勢 F、V

(4) フレアー溶接

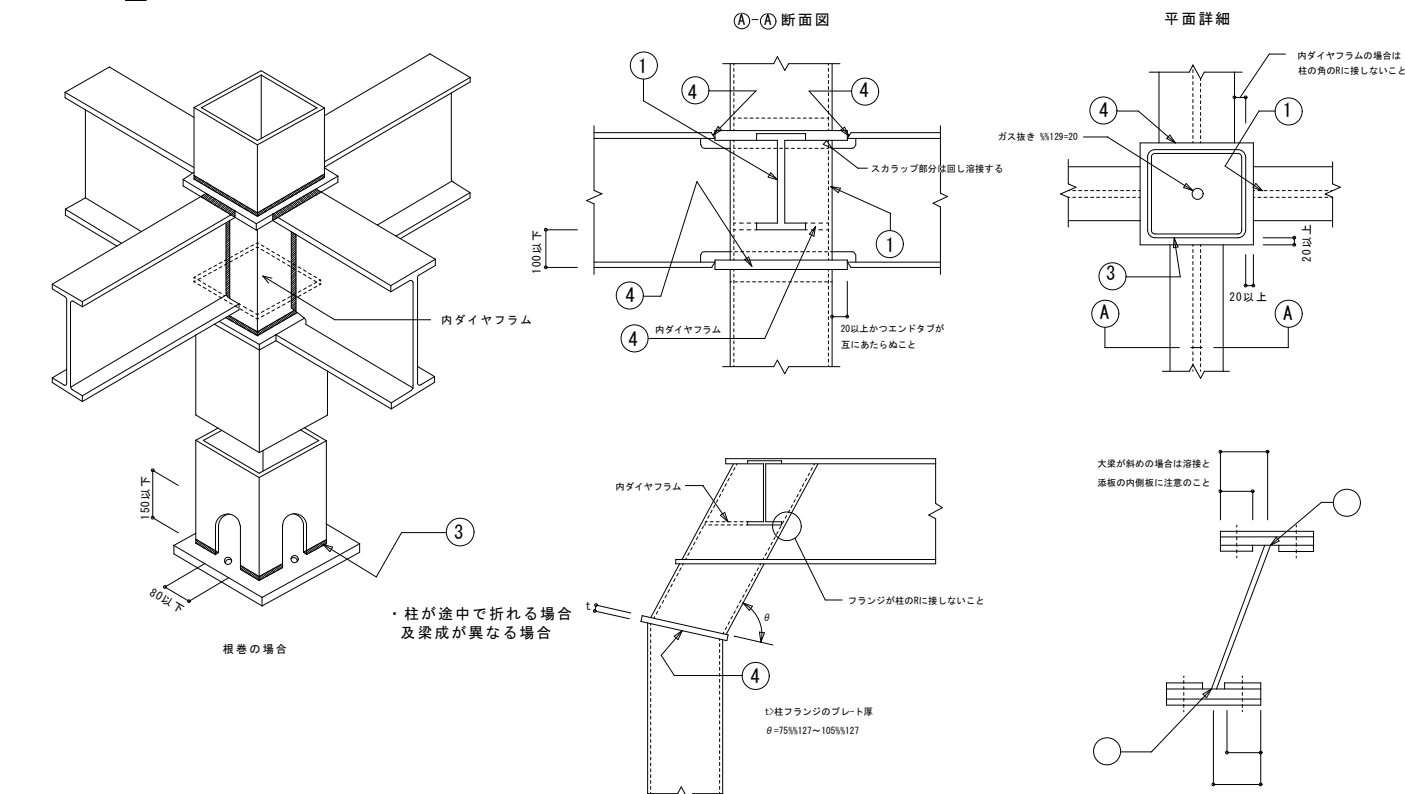
寸法 (mm)		
%129	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする

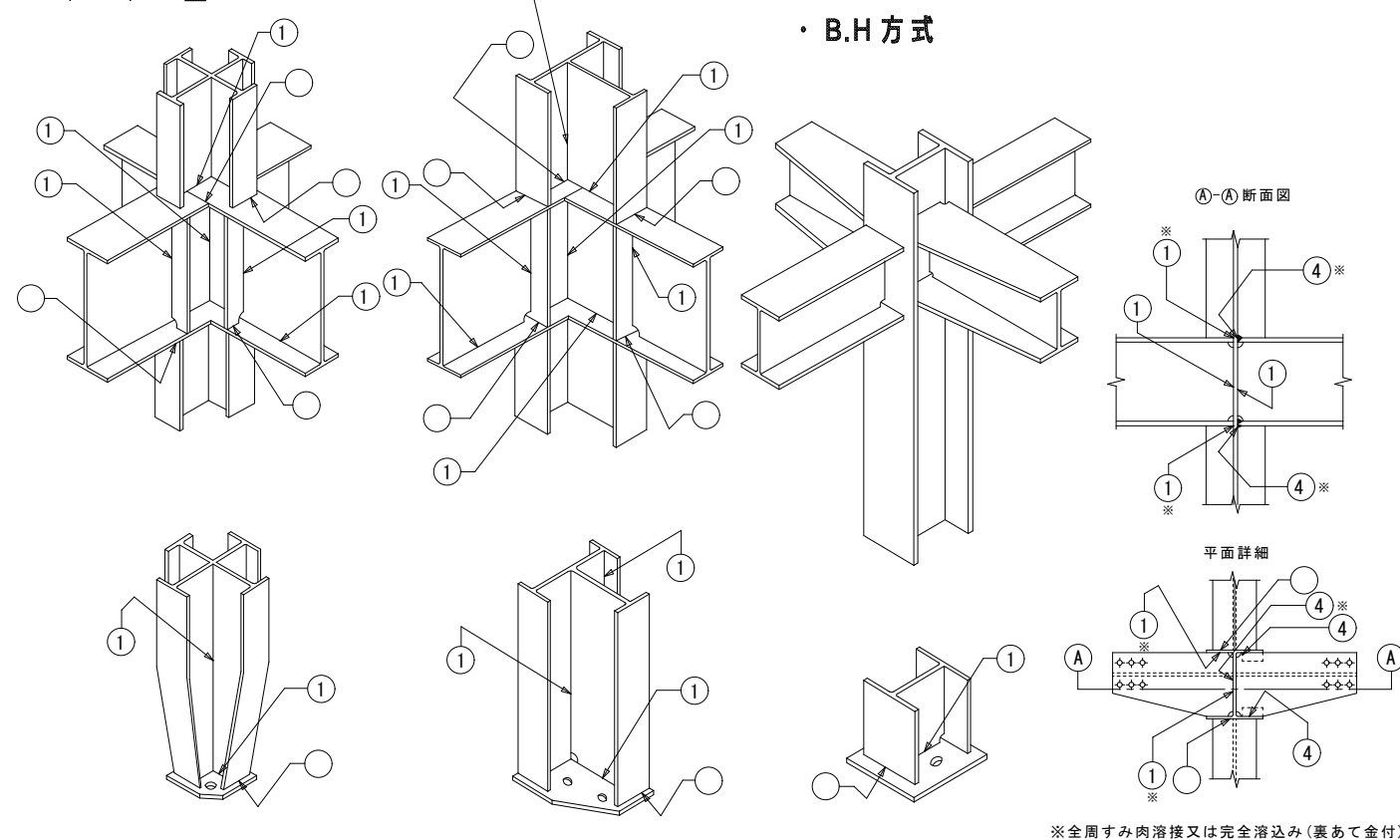
・9mm～16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする

溶接傾角度 θ は30°/127～40°/127とする

- ・溶接記号番号を○中に記入のこと
- ・BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



- ・✚、ト、H 型



鉄骨構造標準図 (2)

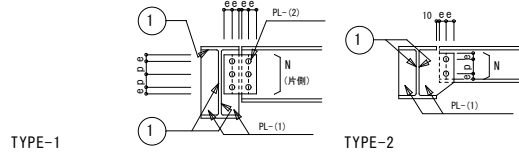
3. 継手基準図、その他

(1) ボルトピッチ (P)、 ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

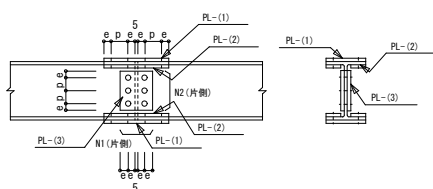
呼び	ボルト 穴 径	最 小 縁 端 距 離 (e)				ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	② ③ の標準	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	30	45	60	70

[注] (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) せん断縁・手動ガス接断縁の場合の縁端距離
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

(2) ピン接合梁継手リスト

[illegible]

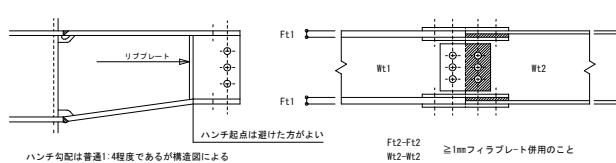
(3) 梁鋼接合継手リスト
(SCSS-H97による)



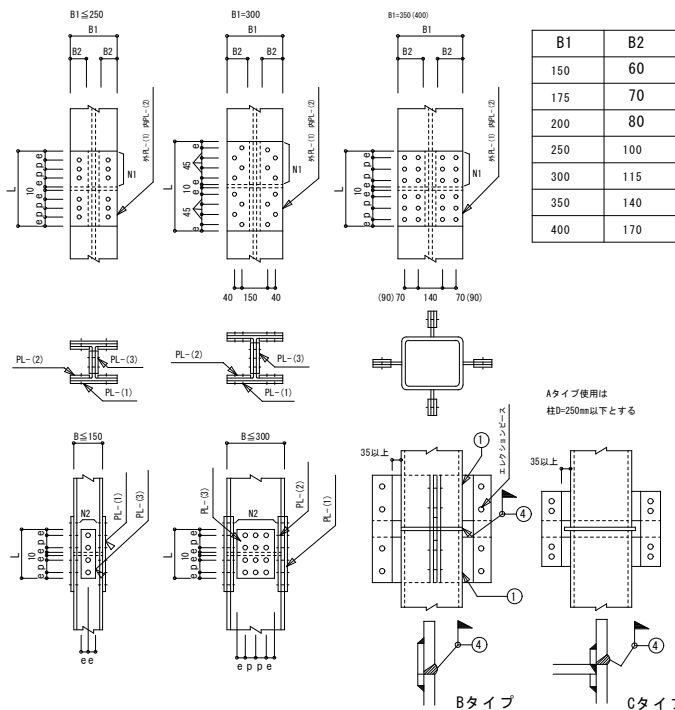
注) 端部をBHとする場合の部材は設計図による

[illegible]

(4) ハンチ部の継手



(5) 柱継手リスト (SCSS-H97による)



Aタイプ使用は
柱D=250mm以下とする

Cタイ:

注)現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%%を行う

[illegible]

(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする… JIS A5540～5542・J198)

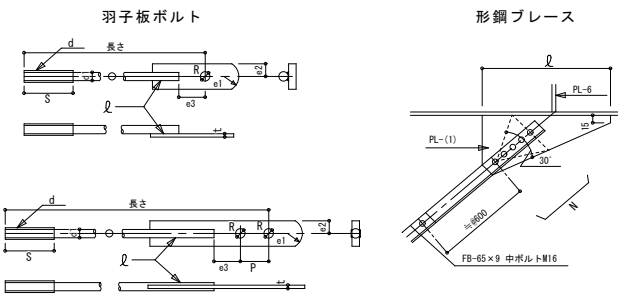
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径d1	最 大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最 小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ S		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差+0、-0.5mm		R	13	17	17	21.5	21.5	23.5
はしあき (最小) ⁽²⁾ e1		35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (最小) ⁽¹⁾ e2	22	28	28	34	34	38	38
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき (最小) ⁽¹⁾ e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト 穴心のあき (最小) e3		47	52	59	66	66	73	74
溶接長さ (最小) ㊟		40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト ⁽²⁾	種 類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) 又は						
		JIS B 1180 中8g10.9						
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本 数	1	1	1	1	1	1	2

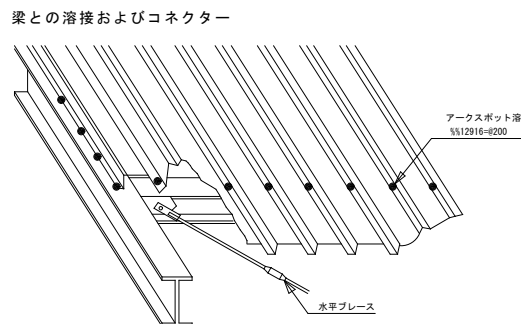
注 (1) e1、e2が確保されていば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする

(b) 形鋼ブレース

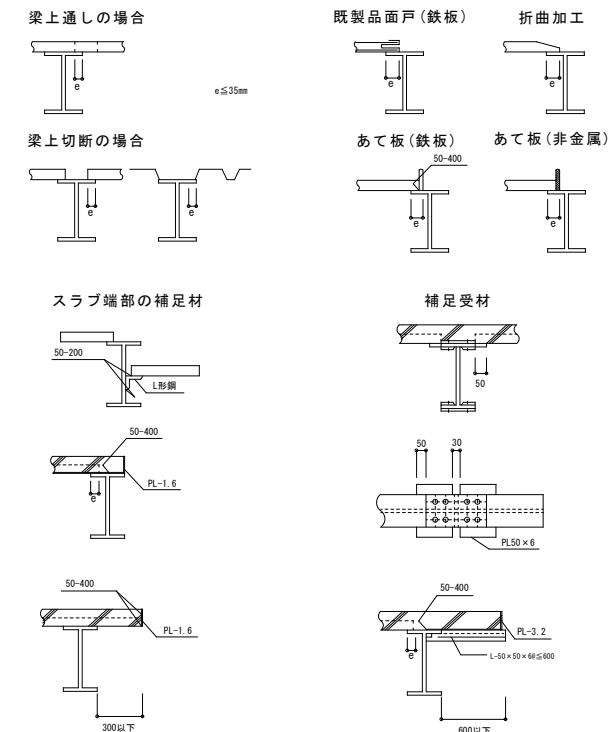
符 号	部 材	PL-(1)	N-径	Q



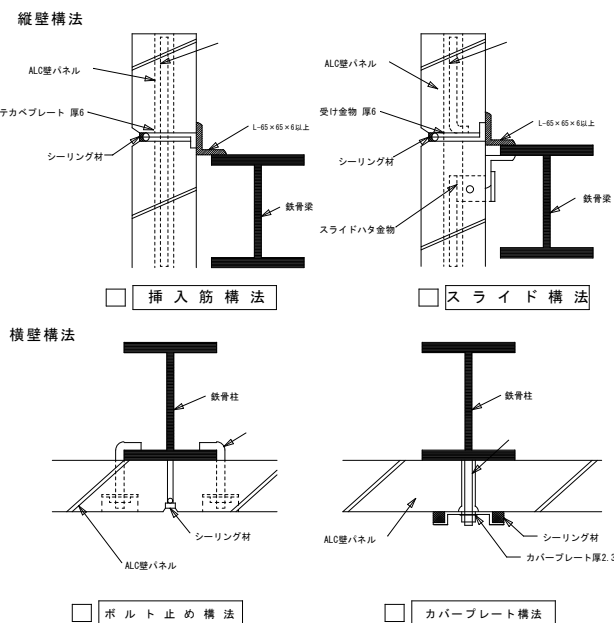
(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照)



受梁へのかかり寸法および端部処理



(8) ALC板取付要領



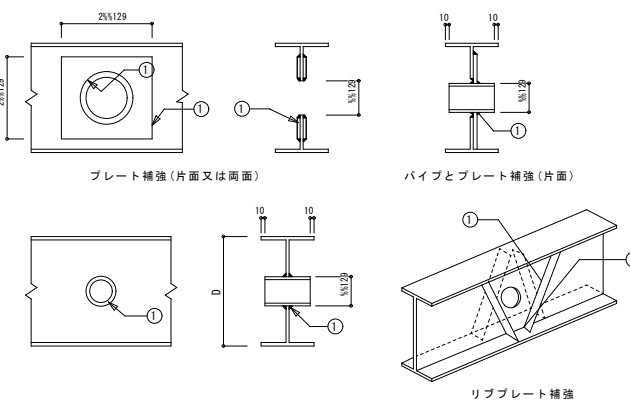
(9) 頭付きスタッド (JIS 1198)

スタッド材の標準形状・寸法

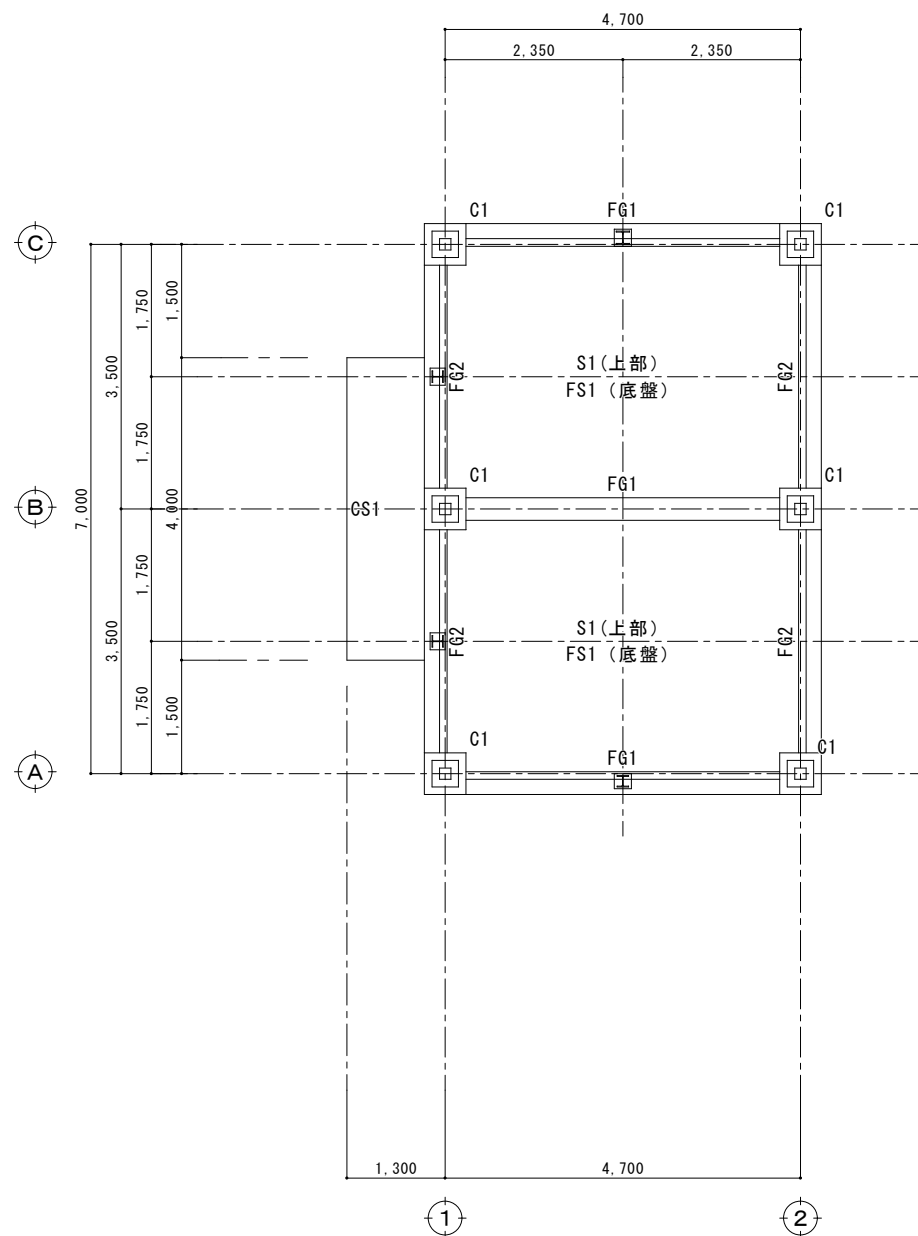
形状		スタッド材				
		呼び名	軸径d (mm)	頭径D (mm)	頭高さT (mm)	溶接後の長さL (mm)
		13mm	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
			12.7	25.4	7.9	
		13mm	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
			15.8	31.7	7.9	
		13mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
			19.0	31.7	9.5	
		13mm	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150
			22.2	34.9	9.5	

(10) 梁貫通補強

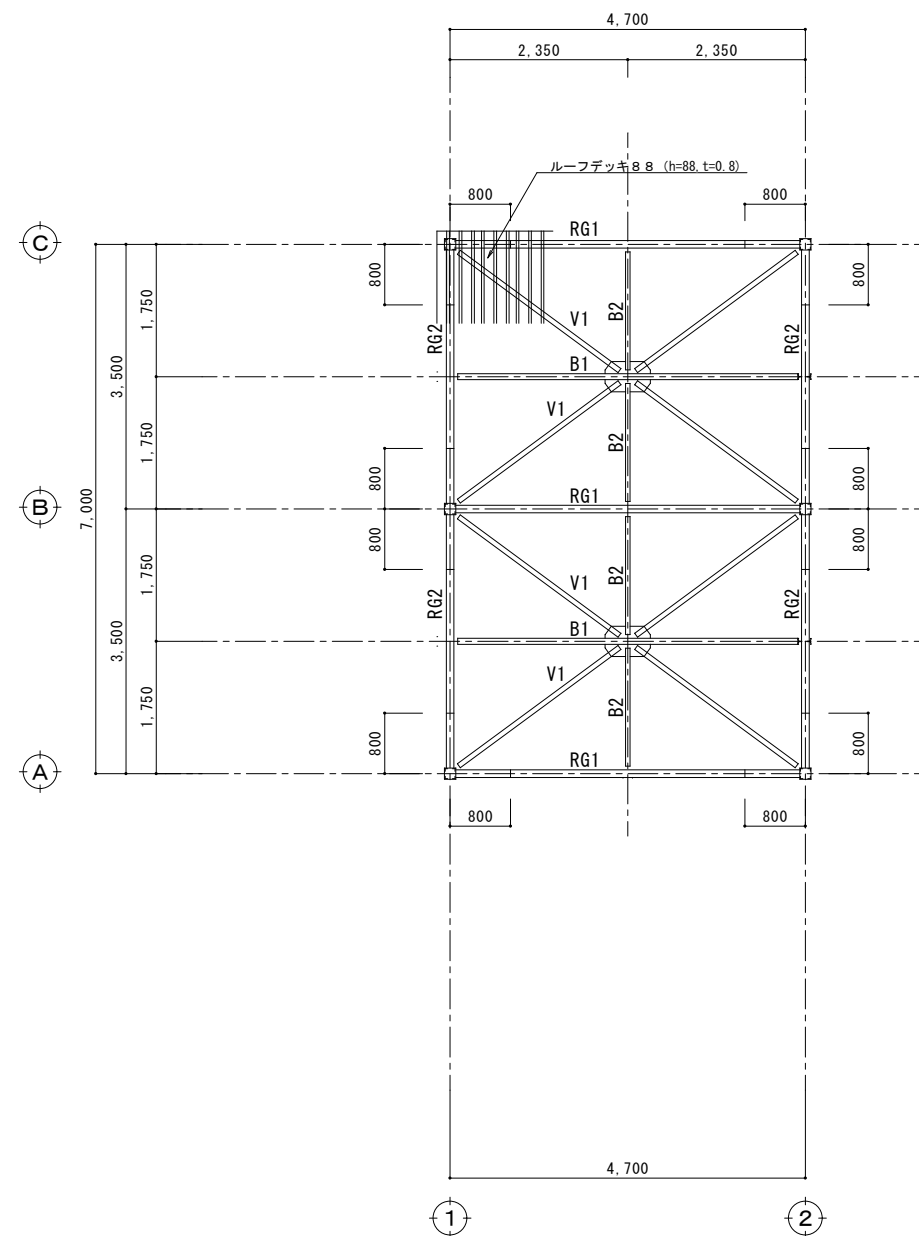
- ・計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
- ・梁端部(スパンの $l/10$ 以内かつ $2D$ 以内)は避ける



(11) その他

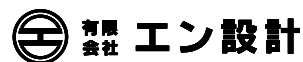


基礎伏せ図



R階梁伏せ図

備考



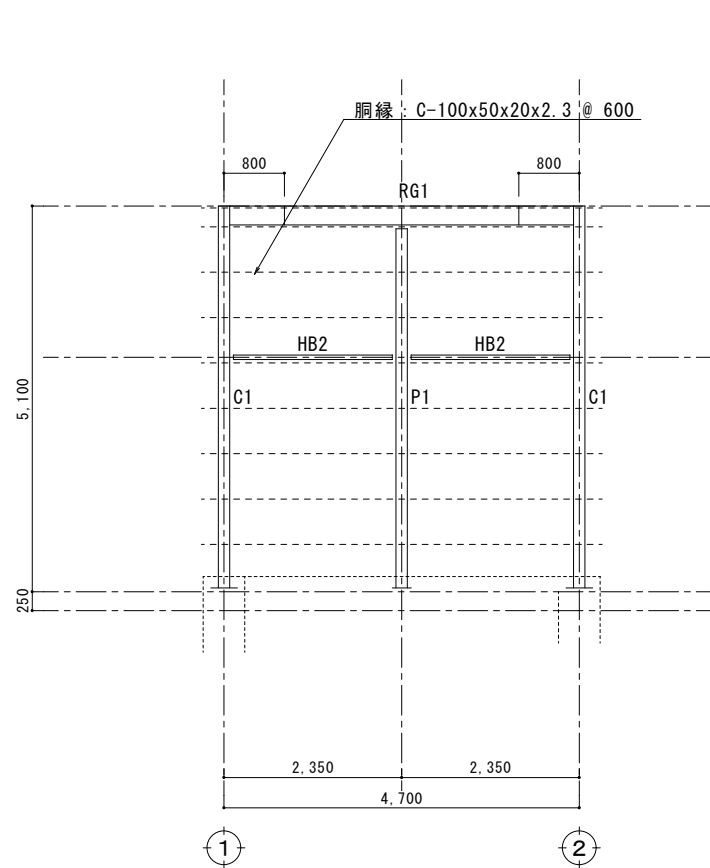
沖縄県沖縄市胡屋5丁目24番6号 TEL 098-933-8885
沖縄県知事登録第132-746号 FAX 098-933-8956
一級建築士第195008号 渡慶次 伸

事業名称 西表漁港製氷貯氷冷凍施設 (R5緑)
工事名称 西表漁港製氷貯氷冷凍施設 新築工事
工事場所 竹富町字西表2493番地

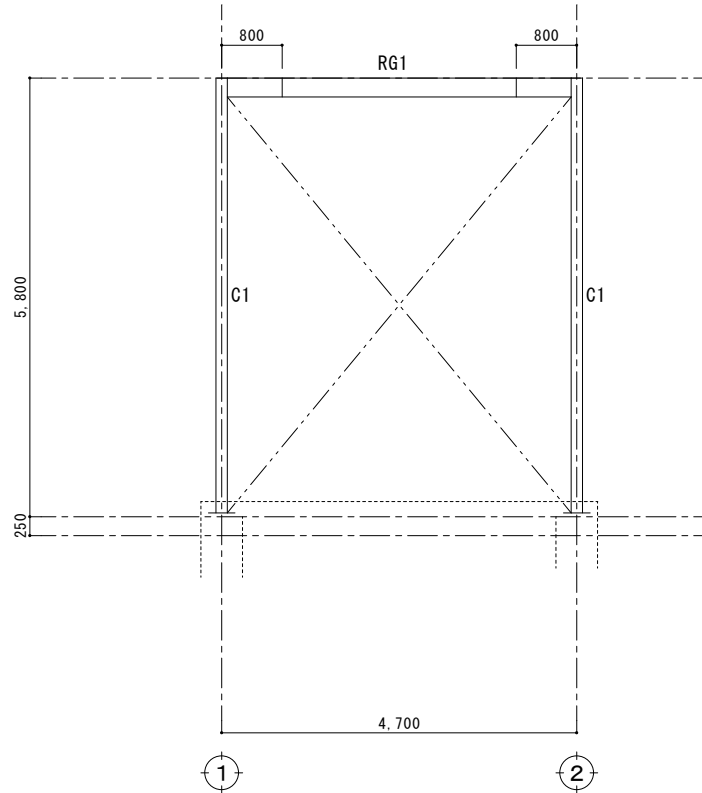
図面名称
基礎伏せ図・R階梁伏せ図

縮尺
A1版: S=1:50
A3版: S=1:100

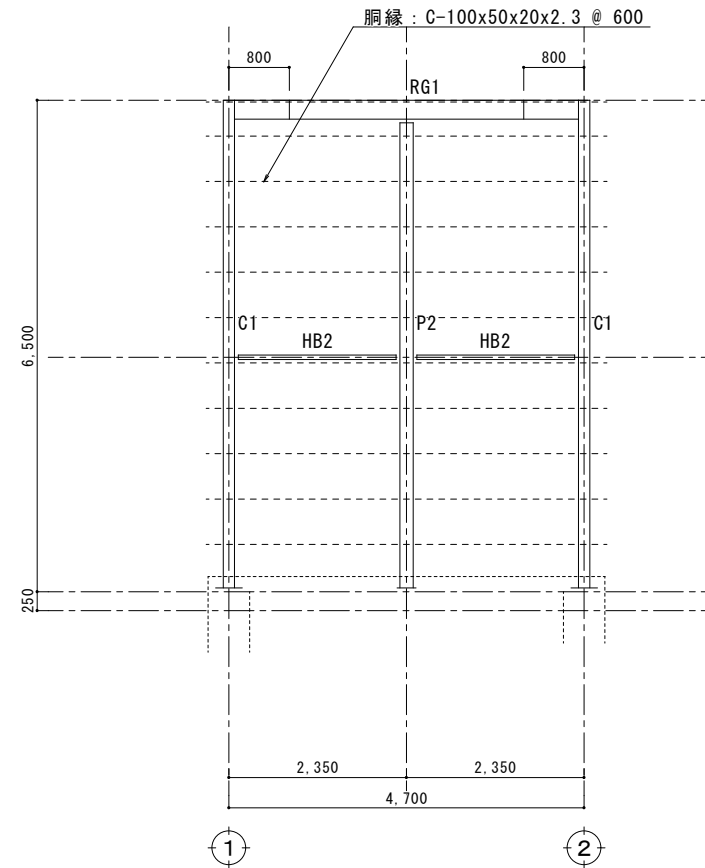
図面番号
S - 6



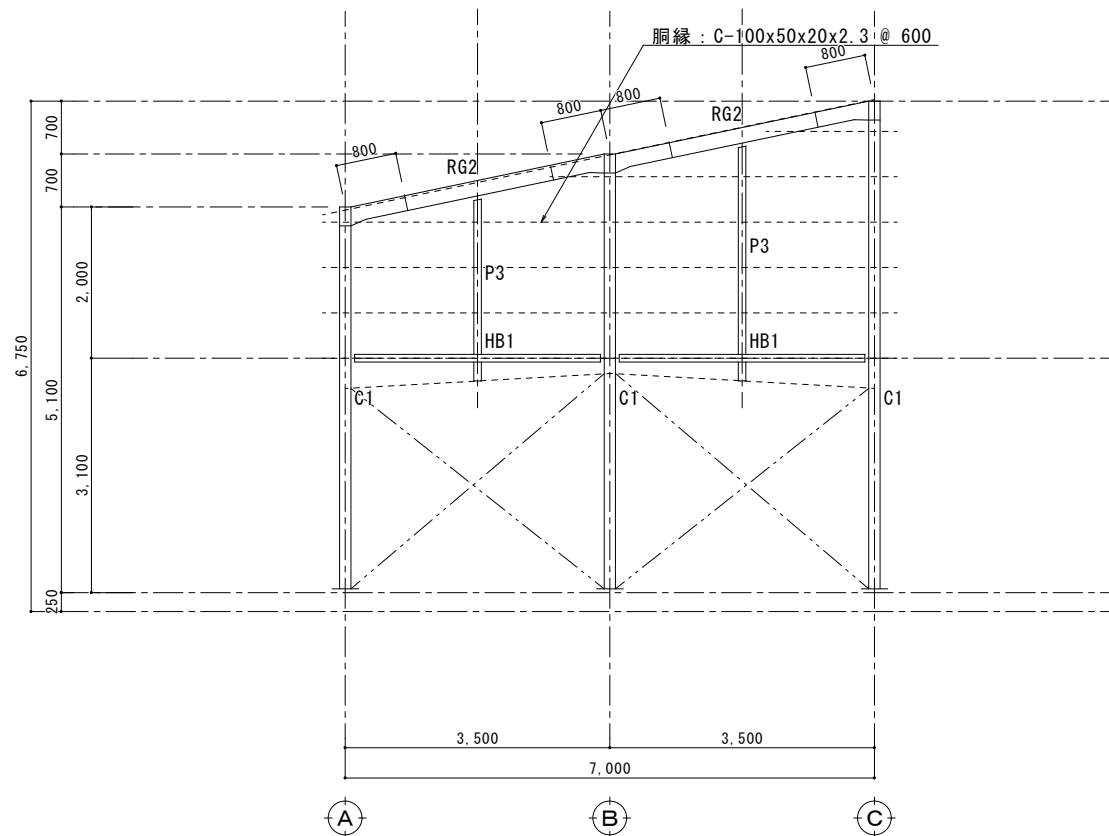
A 通り軸組図



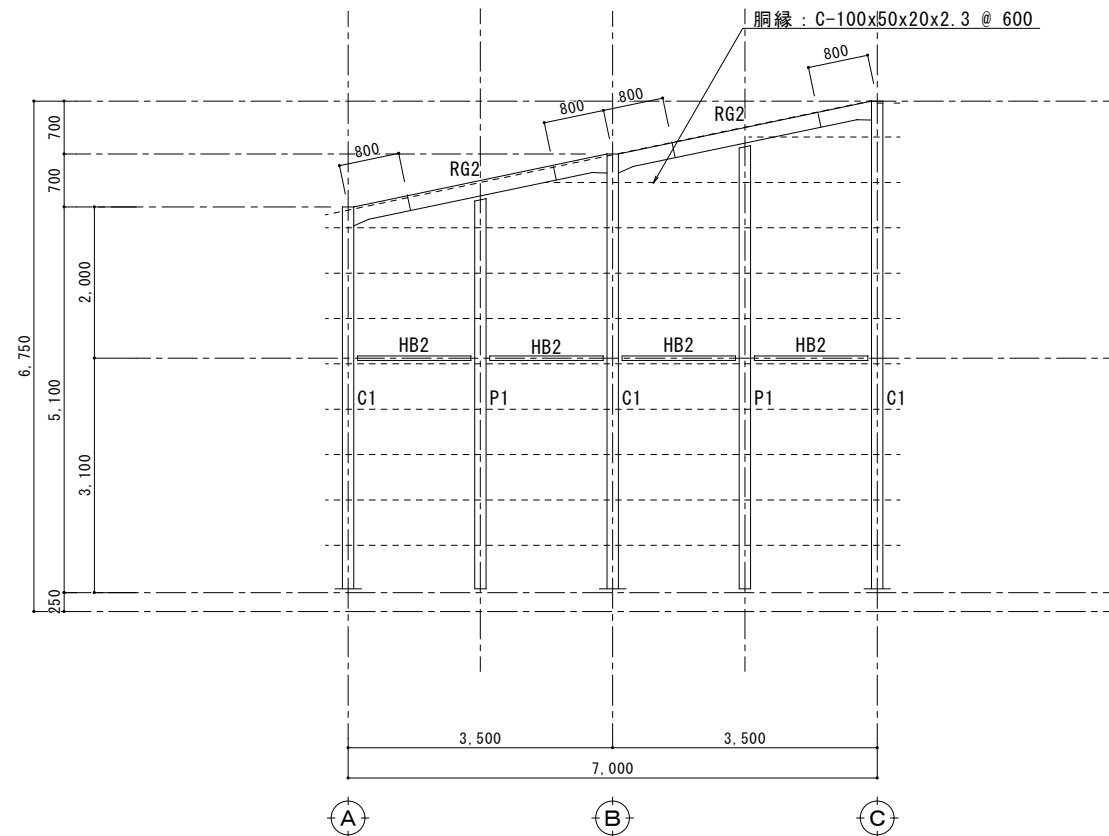
B 通り軸組図



C 通り軸組図

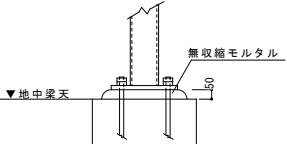
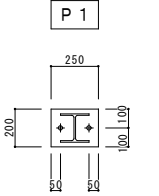
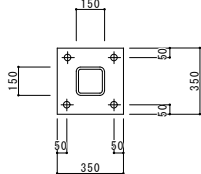
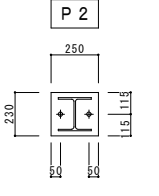
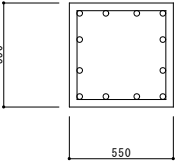
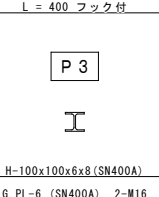


1 通り軸組図

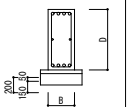
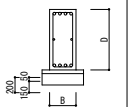


2 通り軸組図

柱リスト S 1/20

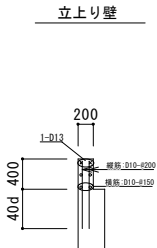
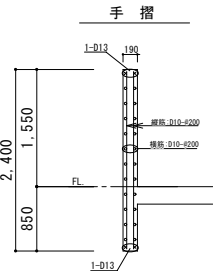
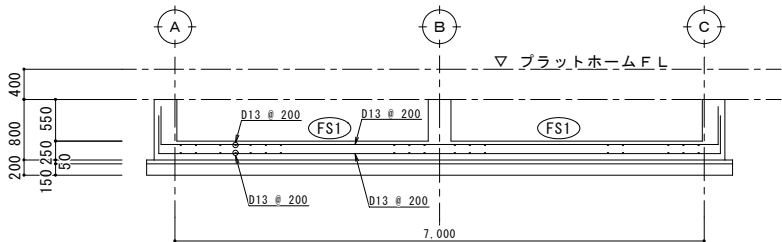
符 号	C 1	
1 階	n-150 x 150 x 12 (BCR295)	
柱 脚		
		
		
	主筋：12-D19 HOOP：□D13#100 (頂部 HOOP:2-D13)	
ベースプレート	350 x 350 x 27 (SN400G)	H-100x100x6x8(SN400A) G.PL-6 (SN400A) 2-M16
アンカーボルト	4 - M22 ABR (L = 550)	
定着板	D=70x70 t=15	
備 考		

地中梁リスト S=1/50

符 号	F G1	F G2		
位 置	全断面	全断面		
断 面				
B x D	350 x 800	350 x 800		
上 端 筋	4 - D19	4 - D19		
下 端 筋	4 - D19	4 - D19		
スチールワ	2-D13#150	2-D10#150		
腹 筋	2 - D10	2 - D10		

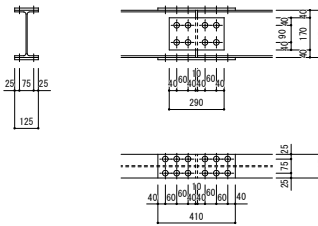
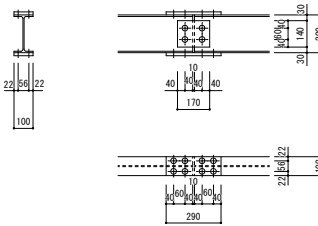
スラブ配筋リスト

符 号	種 別	版 厚 元端 先端	位 置	短辺方向配筋				長辺方向配筋			
				端 部	中 央			端 部	中 央		
F S 1	四辺固定	250	上 端 筋	D13 #200	同 左	主筋		D13 #200	同 左	配筋	
			下 端 筋	D13 #200	同 左			D13 #200	同 左		
S 1	四辺固定	150	上 端 筋	D13 #200	同 左	主筋		D13 #200	同 左	配筋	
			下 端 筋	D13 #200	同 左			D13 #200	同 左		
C S 1	片持ち床	230	上 端 筋	D13 #150	同 左	主筋		D10 #200	同 左	配筋	
			下 端 筋	D10 #200	同 左			D10 #200	同 左		



共通事項
コンクリート強度：FC21
鉄筋強度：SD345 (D19以上)
鉄筋強度：SD295 (D16以下)

大梁、継手リスト

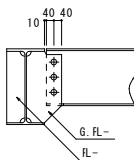
RG1 H-250x125x6x9 (SN400B)			RG2 H-200x100x5.5x8 (SN400B)		
					
フランジ (外添板) SN400B	P.L-12x410	M16 (3x2) HTB:F8T	フランジ (外添板) SN400B	P.L-16x290	M16 (2x2) HTB:F8T
フランジ (内添板) SN400B	-		フランジ (内添板) SN400B	-	
ウェブ (添板) SN400B	P.L-6x170x290	M16 (2x2) HTB:F8T	ウェブ (添板) SN400B	P.L-6x140x170	M16 (2x1) HTB:F8T

小梁リスト

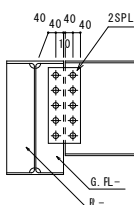
鋼材種別	符 号	部 材 断 面	継 手			備 考	T Y P E
			H.T.B	G.PL-・PL-	ZS.PL-		
SN400A	B1	H - 150 x 75 x 5 x 7	2 - M16	6 (SN400A)	---	---	I
SN400A	B2	H - 125 x 60 x 6 x 8	2 - M16	6 (SN400A)	---	---	I
SN400A	HB1	H - 148 x 100 x 6 x 9	2 - M20	9 (SN400A)	---	横使い	I
SN400A	HB2	H - 125 x 60 x 6 x 8	2 - M16	6 (SN400A)	---	横使い	I
SN400A	P1	H - 150 x 150 x 7 x 10	2 - M16	9 (SN400A)	---	---	I
SN400A	P2	H - 175 x 175 x 7.5 x 11	2 - M20	9 (SN400A)	---	---	I
SN400A	P3	H - 100 x 100 x 6 x 8	2 - M16	6 (SN400A)	---	---	I

仕口TYPE

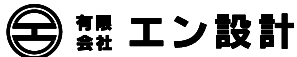
TYPE-I



TYPE-II



備考



沖縄県沖縄市胡屋5丁目24番6号 TEL 098-933-8885
沖縄県知事登録第132-746号 FAX 098-933-8956
一級建築士第195008号 渡慶次 伸

事業名称 西表漁港製氷貯氷冷凍施設 (R5緑)
工事名称 西表漁港製氷貯氷冷凍施設 新築工事
工事場所 竹富町字西表2493番地

図面名称

部 材 リ ス ト

縮 尺

A1版: S=1:20, 50
A3版: S=1:40, 100

図 面 番 号

S - 8

